

第6章 爬虫類・両生類

1. 調査概要	6-1
2. 調査結果	6-1

資料編

- ・爬虫類・両生類の地区別分布記録
- ・爬虫類・両生類の確認種（写真）

執筆者 倉本 満

1. 調査概要

自然環境調査研究会で承認された12の基本調査地域を調査するほか、分布が確認されていない種、分布域が確定していない種をおもな対象として宗像市全域の調査を行った。分析に用いた分布データは2015-2016年に得たものが大部分であるが、前回に行った調査（宗像市、2007）以降のデータ（2007-2014）も含んでいる。

前回同様、爬虫類は成体・幼体の目視、両生類は成体・幼体のほか、卵塊・幼生の目視、および鳴き声を種の同定に用いた。データは調査委員以外に多数の調査協力者によって得られたものである。今回はアンケート調査を行っていない。また、住宅地の調査もほとんど行っていないが、ニホンヤモリ・ニホンアマガエルなどの普通種が生息することは疑いない。なお、和名・学名は日本産爬虫両生類標準和名 (<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/wamei.html>) に従った。

2. 調査結果

今回の調査で収集した分布データの数を表6-1、前回（2006）の調査結果との比較を表6-2、宗像市に生息が確認された種を表6-3に示す。

表6-1 収集した分布データの数（2007-2016.6）

爬虫類

種名	データ数 (%)	メッシュ数 (%)
ニホンイシガメ	5 (3.7)	3 (3.0)
クサガメ	3 (2.2)	3 (3.0)
ミシシippアカミミガメ	4 (2.9)	3 (3.0)
ニホンスッポン	4 (2.2)	3 (2.0)
アカウミガメ	2 (1.5)	2 (2.0)
ニホンヤモリ	8 (5.9)	2 (2.0)
ニホンカナヘビ	23 (16.2)	16 (16.2)
ニホントカゲ	10 (6.6)	4 (4.0)
タカチホヘビ	0 (0.0)	0 (0.0)
アオダイショウ	13 (8.8)	10 (10.1)
シマヘビ	44 (30.9)	29 (29.3)
ジムグリ	2 (1.5)	2 (2.0)
シロマダラ	1 (0.7)	1 (1.0)
ヒバカリ	3 (2.2)	3 (3.0)
ヤマカガシ	17 (11.8)	14 (14.1)
ニホンマムシ	4 (2.9)	4 (4.0)
計	143	99

両生類

種 名	データ数 (%)	メッシュ数 (%)
カスミサンショウウオ	20 (3.5)	12 (3.9)
ブチサンショウウオ	1 (0.2)	1 (0.3)
コガタブチサンショウウオ	0 (0.0)	0 (0.0)
オオサンショウウオ	0 (0.0)	0 (0.0)
アカハライモリ	12 (2.1)	10 (3.2)
ニホンヒキガエル	20 (3.5)	15 (4.9)
ニホンアマガエル	124 (21.6)	73 (23.7)
ニホンアカガエル	121 (21.1)	49 (15.9)
ヤマアカガエル	0 (0.0)	0 (0.0)
タゴガエル	13 (2.3)	8 (2.6)
トノサマガエル	3 (0.5)	1 (0.3)
ツチガエル	7 (1.2)	6 (1.9)
ウシガエル	67 (11.7)	35 (11.4)
ヌマガエル	145 (25.3)	82 (26.6)
シュレーゲルアオガエル	40 (7.0)	16 (5.2)
カジカガエル	0 (0.0)	0 (0.0)
計	573	308

表 6-2 今回と前回の調査結果の比較

	種 名	2007 ('95-'06)	2016 ('07-'16)
爬虫類	ニホンイシガメ	○	○
	クサガメ	○	○
	ミシシippiaアカミミガメ	○	○
	ニホンスッポン	—	◎
	アカウミガメ	—	◎
	ニホンヤモリ	○	○
	ニホンカナヘビ	○	○
	ニホントカゲ	○	○
	タカチホヘビ	—	—
	アオダイショウ	○	○
	シマヘビ	○	○
	ジムグリ	—	◎
	シロマダラ	○	○
	ヒバカリ	○	○
	ヤマカガシ	○	○
	ニホンマムシ	○	○
	両生類	カスミサンショウウオ	○
ブチサンショウウオ		—	◎
コガタブチサンショウウオ		—	—
オオサンショウウオ		—	—
アカハライモリ		○	○
ニホンヒキガエル		○	○
ニホンアマガエル		○	○
ニホンアカガエル		○	○
ヤマアカガエル		—	—
タゴガエル		○	○
トノサマガエル		—	◎
ツチガエル		○	○
ウシガエル		○	○
ヌマガエル		○	○
シュレーゲルアオガエル		○	○
カジカガエル		—	—

注) ○は分布確認、◎は今回初めて確認したことを示す。

タカチホヘビ、コガタブチサンショウウオ、オオサンショウウオ、ヤマアカガエル、カジカガエルは福岡県に分布する種で、参考のため種名のみ記載している。資料編の表VI-1、表VI-2についても同様。

表 6-3 宗像市で生息が確認された爬虫類・両生類

	和名	学名	県RDB	国RL
爬虫類	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	II	NT
	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		
	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>		
	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus*</i>	DD	DD
	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	IB	IB
	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		
	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>		
	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		
	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		
	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		
	ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	NT	
	シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>	NT	
	ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>	NT	
	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>		
	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>		
両生類	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	II	II
	ブチサンショウウオ	<i>Hynobius naevius</i>	NT	NT
	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT	NT
	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>	II	
	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>		
	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	II	
	タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>		
	トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	IB	NT
	ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	NT	
	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>		
	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>		
	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>		

*学名は河村・他(2015)による。

注) 県 RDB、国 RL は福岡県レッドデータブック (2014)、環境省レッドリスト(2012)、IB は絶滅危惧 IB 類、II は絶滅危惧 II 類、NT は準絶滅危惧、DD は情報不足を示す。